

平成29年10月吉日

保護者 様
各 位

尼崎市立尼崎北小学校
校長 都倉 功充

平成29年度 全国学力・学習状況調査 結果報告

平成29年度の全国学力・学習状況調査が、去る4月19日に6年生児童を対象に行われました。その調査内容は、下記①～④の内容項目です。

- ①国語A：主として知識問題
- ②国語B：主として活用問題
- ③算数A：主として知識問題
- ④算数B：主として活用問題

以下、結果に基づいて、報告いたします。

平成29年度 全国学力・学習状況調査結果（尼崎北小学校第6学年児童）

国語A：主として知識問題

区分	平均正答率(%)		
	尼崎北小学校	兵庫県(公立)	全国(公立)
話すこと・聞くこと	54	70	69
書くこと	57	59	61
読むこと	69	71	70
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78	78	78

国語B：主として活用問題

区分	平均正答率(%)		
	尼崎北小学校	兵庫県(公立)	全国(公立)
国語への関心・意欲・態度	41	41	42
話すこと・聞くこと	67	64	65
書くこと	54	53	53
読むこと	51	49	49

算数A：主として知識問題

区分	平均正答率(%)		
	尼崎北小学校	兵庫県(公立)	全国(公立)
数と計算	83	80	81
量と測定	72	69	69
図形	82	82	81
数量関係	82	78	80

算数B：主として活用問題

区分	平均正答率(%)		
	尼崎北小学校	兵庫県(公立)	全国(公立)
数と計算	58	53	53
量と測定	53	49	47
図形	21	15	13
数量関係	46	40	40

1 各教科の設問別の状況（平均正答率の全国平均との比較）

【国語A】設問別では、全国の平均正答率を下回っています。特に、「話すこと・聞くこと」については、互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら進行に沿って話し合う力に課題がみられます。

【国語B】設問別では、ほとんどの設問で、全国の平均正答率を上回っています。特に、「話すこと・聞くこと」では、A問題とは対照的に2ポイント全国を上回っています。また、「読むこと」においても、2ポイント全国を上回っています。これらは、目的や意図に応じ、適切な言葉づかいができたり、自分の考えを広げたり深めたりすることが、比較的できていることによる結果です。その一方で、課題としては、自分の考えをまとめるために図やグラフなどを効果的に用いたり、文章と図やグ

ラフなどを関連付けて書いたりすることがあげられます。

【算数 A】設問別で、全てにおいて、1 ポイントから 3 ポイント全国を上回っています。

上回っているとはいえ、計算ミスなどのケアレスミスが見られます。また、「数と計算」では、基準量、比較量、割合の関係を正しく捉えることが課題です。

【算数 B】設問別で、全てにおいて、全国の平均正答率を 5 ポイント以上、上回っています。

無回答率も低く良好ではありますが、今後の課題として、示された資料から必要な数値を選び、その求め方や答えを記述で説明することや事柄を関連付けて考えることがあげられます。

2 児童の学力向上にむけた学校の取り組み

(1) 教科における指導改善の具体的なポイント

①国語科

- ・自分の考えや思いをしっかりと表現できる児童を目指し、「書くこと」における授業の充実を図る。特に、相手意識や目的意識を持たせ、課題設定や取材、構成、記述、推敲、交流などの学習活動を丁寧>fumae、伝えたいことが読み手（相手）に伝わるような文章が書けるよう指導する。
- ・言葉やローマ字、漢字など、反復学習により言語についての知識・理解を更に深める。

②算数科

- ・日常生活の事象などを取り入れ、各学年で身につけなければならない単位量あたりの大きさを活用し、合理的に判断、処理するような活動を進める。
- ・日常生活から図形を見だし、図形の定義や性質と関連づけて考えるような活動を取り入れる。
- ・示された情報から基準量と比較量を認識するために、その関係を図や数直線で考えたり、学年に応じた具体物を使って体験的に捉えたりすることができるようにする。

(2) 学習意欲を高める

子どもたち一人ひとりが、学びの目標やねらいを持ち、達成する喜びを味わいながら、学習を進めていくことができるようにする。単元学習において相手意識、目的意識がもてる学習展開を工夫する。

(3) 支援体制を充実する

第 5 学年と第 6 学年では新学習システム導入に伴う「教科担任制」や「複数指導」などの支援体制を整える。第 3 学年と第 5 学年における放課後学習、第 4 学年における算数科の授業補助支援など、支援体制の充実を図る。このほか、外国語活動においても、指導援助支援として、A L T (Assistant Language Teacher) や J E T (Japanese English Teacher) とともに外国語の学習活動を進めていく。

(4) 主体的な家庭学習にむけて

児童自らが取り組む学習を大事に支援する。見本となるノートを準備し、児童の頑張りを賞賛しながら取り組む。また、学校で学んだ基礎・基本の内容をもとに発展・活用へとつなぎ、主体的な家庭学習をさらに進めていくことができるよう支援する。

今後も、ご家庭のお力をかりながら、児童の学習に対する意欲を大切に、一人ひとりに確実に学力が定着していくよう指導していきたいと考えています。 (以 上)